

早稲田大学 教育学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	例年と同じく,大問4問(1問は政治・憲法分野より,3問は経済分野より出題)の構成,難易度は昨年並み。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	議院内閣制と大統領制,地方自治体の首	<p>米国に代表される大統領制,フランスの半大統領制,わが国の議院内閣制や地方自治体の首長に関し,時事的問題を絡めて出題している。</p> <p>「帝王的大統領」と批判されたニクソン大統領,連続7期にわたって革新系の蜷川府政が続いた京都府,バジヨットの「イギリス憲政論」などは難問。</p> <p>フランスの半大統領制については2000年度にも法学部で出題。</p>	標準
	欧州連合	<p>EC,EUに関する基本的な問題。</p> <p>EU加盟交渉(EU拡大)の動きについては今後とも注意が必要。EU加盟国の政治制度については2000年度に法学部で出題。</p>	やや易
	財政と金融	<p>財政と金融に関する基本的な問題。文中の空欄C・Dは設問から判断。</p>	やや易
	経済学説(ケインズ,シュンペーター),景気循環,IT革命	<p>シュンペーターの学説はフリードマンとともに近年頻出。IT革命,Eコマース,B to B, B to Cは常識化された用語。</p>	標準

〔総合コメント〕

全般的に素直な問題が多い。確実な基礎知識があれば 7 割は可能。他学部で以前に出題された分野も散見される。近年の他学部の過去問,特に時事的問題は要注意。

難問でも意外なところにヒントがある。あきらめずに冷静な対応が大切。

(難問については,解答例を参照)